

教育動向

8・4 21世紀のいいたの教育を語る
会が初会合、障害児教育などで提言

県教委は三日、県第八次総合教育計画策定の方向性を探るため有識者懇談会、21世紀のいいたの教育を語る会を開いた。初回は学校教育をテーマに、国際理解教育や障害児教育などについて幅広く意見交換した。同計画は、二〇〇一年度から二〇〇五年度までの五ヶ年計画で、本県の教育施策全般を網羅した基本指針となる。懇談会は学識経験者を中心に六人の委員で構成している。(新潟日報)

8・13 県内不登校 小減、中、鈍化
本県では九八年度中に、三十日以上欠席した小学生(国、公立)は千三百六十二人。そのうち不登校児童は六百二十二人で、前年度中よりも六十八人減った。県教委義務教育課によると、「長欠を三十日以上とした」九二年度以来、初めて減少に転じた。病気による長欠は七百人、

その他が四十人で、経済的理由はなかった。また、中学生(国、公、私立)では二千七百二十人。うち不登校生徒は二千二百二十四人で前年度中よりも二十七人の増。同課では、「これまでよりも増加の度合いが鈍っている」としている。長欠の原因が病気なのは四百三十四人、その他は五十四人、経済的理由が八人だった。

一方、今春の高校卒業者のうち大学・短大に進学したのは一万百十七人で、進学率は三五・五％。進学率は前年度よりも一・七ポイント伸びたが、全国順位は前年度より一つ下がり三十九位。専修学校などへの進学者数は九千八百十六人。県教委高校教育課では「近年、専修学校などへの進学者が大学・短大進学者を上回る傾向が続いていたが、久しぶりに逆転した」としている。就職者総数は六千五百六十八人で、就職率は二三・〇％。就職率は前年度より三・一ポイント減少し、就職難の傾向を示している。

(新潟日報)

8・14 児童・生徒の暴力3万5千2百件

公立の小、中、高校の児童・生徒が一九九八年度に起こした「暴力行為」は約三万五千二百件と、前年度を二割強上回って過去最高を更新していたことが、文部省が十三日付で発表した「問題行動調査」の速報でわかった。暴力行為のうち、ガラスを割る、校舎に落書きするといった「器物損壊」は約一万四百件と、前年度比で四割増の急激な伸びを示している。さまざまな不満のはけ口を物に求めているとみられ、校内暴力が社会問題になった八〇年代前半とは違う「荒れ」の形態が浮かび上がった。一方、いじめは三年連続で減少したが、なお約三万六千四百件と高い数字を示している。(朝日新聞)

9・6 生徒が主役の高校に
生徒が主役となる高校づくりを探ろうという意見交換会がこのほど、新潟公立高教組の主催で長岡市で開かれ、高校生らも参加して日ごろ感じていることを語り合った。「こんな学校あったらいいね」と題して開かれた集会は、さまざまな問題を抱える教育界の現状や、県が打ち出した高校整備計画などを受けて開かれた。

会場には教師のほか、高校生や卒業生、

父母、大学や予備校の関係者など四十人が集まり、約二時間にわたり意見を交換した。話し合いは結論を出すことは目的にせず、テーマも特に絞らずに進められた。同組合では「今回の話し合いを、みんなで高校のあり方を探る第一歩にした」と、今後の取り組みにつないでいくことにしている。

9・23 論文題のみ公開 校長・教頭選考で県審査会
(新潟日報)

県公文書公開審査会(上村光司会長)は二十二日、「関による公教育支配をやめさせ、新潟県の教育をよくする会」(代表委員・高森勉さんほか)が公開を請求していた平成八・九年度の公立小、中学校などの校長、教頭、教員の選考検査問題など七件の公文書について、校長、教頭を選考する論文題に限り公開するが、選考検査のうち筆答、面接問題と、選考基準は非公開が妥当と、県教委に答申した。

同審査会の答申はすべてを非公開にした県教委の当初の決定より公開部分を一部広げた形だが、「よくする会」は不服とし

て、行政訴訟を起こす構えだ。

(新潟日報)

9・25 ストップ児童虐待、柏崎で防犯連絡会が発足、県内初
児童虐待が顕在化し増える傾向にあるなか、柏崎市に「子どもの虐待防止連絡会」が発足した。市担当部署を中心に関係機関が連携し防止、予防に当たる。核家族化で孤立しがちな保護者への子育て支援にも力を注いでいく方針。県内でこうした会が組織化されたのは初めてという。同市の家族児童相談室に寄せられる子どもに関する相談は、平成十年度が五十一件(うち児童虐待十三件)、相談述べ回数二百四十五回。九年度の二十四件(同四件)、同七十五回に比べ大幅に増え、本年度も増加傾向という。

10・10 青少年の体力、低下続く、文部省の「新体力テスト」中3で顕著
十代の青少年の体力や運動能力は依然として低下傾向にあることが九日、体育の日を前に文部省がまとめた一九九八年の体力、運動能力調査で分かりました。今回から調査項目を大幅に改定し、健康

関連体力を重視した「新体力テスト」を実施したため、従来の調査結果とは一概に比較できませんが、年齢別では高校受験を控えた中学三年生に相当する十五歳の体力が低下しているのが目立っています。同省は「身長の伸びが先行し、体重が後から増えてくるアンバランスな時期である上、受験勉強や睡眠不足、ダイエットなどが複合的に影響しているのでは」(生涯スポーツ課)と分析。

(赤旗)

10・26 30人学級実現を訴え、高校教職員組合など県の教育改革に反対
県高等学校教職員組合や市民団体「教育をよくする新潟県民会議」(矢野教代表)などは二十五日から、「教育改革全県キャンペーン運動」を開始。

10・30 新大日の丸掲揚問題、評議会上で撤収要求。
(朝日新聞)

新潟大(新潟市)の荒川正昭学長が、学内に日の丸を常に掲揚し、混乱が生じた場合には警察に出動を要請するよう、部局長に文書で指示していたことが二十九日、明らかになった。新大職組は学長に撤収要求。

新大日の丸掲揚問題、評議会上で撤収要求。
(朝日新聞)